

経営学のすすめ

名城大学 教授 雑賀憲彦

いま私の教えている経営学には、一般によく使われているマネジメントやマーケティング、組織論、リーダーシップなど、それこそ社会人なら誰もが口にするような言葉がすべて含まれている極めて重要な学問である。マネジメントは生産マネジメント、営業マネジメント、人事マネジメントというように何でもマネジメントがついてくる。マーケティングも外資系企業だけではなく、大企業や先進的な企業なら必ずマーケティング部門が存在する。組織の重要性については改めて言うまでもないだろう。毎年どこの会社でも組織の編制・見直し、人事異動が見られるはずである。また、リーダーシップは部下を持つ立場の人だけではなく、グループで仕事をする場合など同僚内でもリーダーシップが求められる、その知識を持っている人とそうでない人では成果に違いが出るほどである。

このように経営学ほど社会に出てすぐに必要となる学問も珍しいくらいであるのだが、不思議なことに大学で必修科目となっているところが少ないのである。これは文部科学省の指導が悪いのか、大学のトップに世間知らずが多いのかわからないが、経営学が最も社会に出て役立つ学問であることを理解していないのであろう。

先日も私は小学校の教頭会からマネジメントとリーダーシップについての研修の依頼を受けたが、小学校の先生も管理者になれば、部下指導上での悩み、組織を上手く導いていくことへの悩みが生じるのである。いわんや一般の企業に勤める人たちには、当然マネジメントやリーダーシップの知識を持っていなければ仕事に支障が出ることさえあるだろう。

ところが、実際には大学で経営学を学習した社会人は、経営学部の卒業生以外はほとんどないというレベルなのである。これでは日本が世界に伍して戦っていくにはあまりにも知識不足と言えるのではないか。マネジメントやマーケティング、組織論やリーダーシップが当たり前になっている世界と戦ったり、協調したりするのに、気後れする時があるのに違いない。また身近な例でいうと、主婦のパート仲間、老人会、団地の自治会など、小さな組織でも予算を上手に集め、経費の効率的な使い方をし、メンバーの適材適所の配置などで経営学の知識が随所に求められるが、ほとんどの人達が手探りの状態であらう。

今からでも良いので、高校から経営学を必修科目に組み入れることを是非お勧めしたい。

(980 文字)

以上